

第 69 号

令和3年6月15日

ふすま同窓会本部



## ふすま同窓会 101 年を迎えて

ふすま同窓会 会長 野村 一 芳 (人文1回)

令和3年度を迎え、会員の皆様には、お元気でお過ごしのことと存じます。また、常日頃から同窓会の活動にご理解ご協力賜り厚く感謝申し上げます。

昨年は、コロナ禍の中で止むを得ず「ふすま同窓会百年記念祭」を延期致しましたことお詫び申し上げます。「ふすまの集い」では、玉手山形大学長をお迎えし「百年記念碑」の建碑式、「ふすまりフレッシュルーム」の開所式を開催しました。その他例年の「ティーデマンふすま賞」の授与、学習環境整備としてフェイスシールドの贈呈、教室の音響装置整備などのコロナ対策支援も行いました。

今年は、延期した「ふすま百年記念祭」を10月30日に開催致します。コロナ禍は終息しておりませんが、ワクチン接種が始まりました。現在記念祭実行委員会

では皆様に安心して参加して頂けるよう準備を進めており、安全に万全を期して開催してまいりますので、元気で懐かしの山形で是非お会いしましょう。皆様の参加をお待ちしております。

また、今年は「ふすま同窓会101年」となる次の新しい百年に向かってのスタートの年です。山形大学も新しい人文社会科学部第1回の卒業生が生まれ、理学部第51回の卒業生と共に新たな区切りの時代に入りました。

コロナ禍の中、人と人の絆が薄れ人の気持ちも暗くなりがちです。このような時にこそ同窓の友との交流が必要になってきているのではないのでしょうか。多くの会員が楽しく集えるふすま同窓会を目指してまいりますので、皆様の積極的な呼びかけをお願い致します。

### お 知 ら せ

令和2年10月24日予定の百年記念祭は次の通り実施します。

### ふすま同窓会百年記念祭

日 時 令和3年 10月30日(土) 12:30～  
会 場 ホテルメトロポリタン山形(山形市香澄町一丁目)  
電 話 023-628-1111

なお、令和3年度の「ふすまの日・ふすまの夕べ」は行われません。

### 令和4(2022)年度 ふすま同窓会総会予告

－期日(予定)－  
令和4年5月14日(土)

－場 所－  
ホテルメトロポリタン山形  
(山形市香澄町一丁目)

### 「百年記念祭テーマ」

—「伝 統 を 紡 ぎ 未 来 に 続 く」—

※題字：野村一芳会長 背景：チョウカイフスマの花

# 令和3年度 ふすま同窓会総会の本年度も中止

令和3年4月24日(土)、いわゆる三密を避け山形市の東部公民館講堂を借りて、令和3年度第1回常任理事会が開催された。

この中で、令和2年度の事業報告と決算報告、令和3年度の事業計画(案)と予算(案)、また、役員の改選では、会長、副会長、常任理事については現在のメンバー、理事については、一部交替・追加の提案が出されたが、いずれも異議なく承認・決定された。

議事の「その他」の中で、令和3年度ふすま同窓会総会は、5月15日(土)に開催予定としていたが、昨年と同様に中止とし、「本日の常任理事会の議決をもって、総会議決とみなす」旨の追加議案が出され、全会一致で議決された。



## 令和2年度事業報告

### 令和2年

- 4月25日(土) 常任理事会
- 8月1日(土) ふすま同窓会報(第68号)発行
- 9月12日(土) ティーデマン碑供養祭(山寺立石寺)
- 23日(水) ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 10月24日(土) ふすまの集い(百年祭記念碑建碑式・ふすまリフレッシュルーム開所式)(山形大学)

- 10月 ティーデマン・ふすま賞授賞式(山形大学)
- 11月8日(日) 第10回安達峰一郎記念世界平和弁論大会協賛
- 12月4・5日(金・土) 第48回模擬裁判支援(山形市民会館)

### 令和3年

- 1月1日(金) ふすま通信(第10号)発行

## 令和3年度事業計画

### 令和3年

- 4月24日(土) 常任理事会
- 6月15日(火) ふすま同窓会報(第69号)発行
- 9月 ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 9月11日(土) ティーデマン碑供養祭(山寺立石寺)
- 10月30日(土) ふすま同窓会百年記念祭(ホテルメトロポリタン山形)
- 11月7日(日) 第11回安達峰一郎記念世界平和弁論大会協賛
- 11月 第49回模擬裁判支援(山形テルサ)

### 令和4年

- 1月1日(土) ふすま通信(第11号)発行
- 3月25日(金) 人文社会科学部・理学部卒業祝賀会

副会長 戸石健二(人文1回)

## 令和3年度 支部長会議

令和3年5月15日(土)午後2時から、オンラインによる支部長会議が史上初めて開催された。

本来であれば、定例の同窓会総会の前日に実施されてきた会議であるが、昨年に続き総会が開かれないう状態になったので、せめて支部長会議だけは開催しようとの思いであった。

キー局を同窓会事務局に置き、札幌は島田支部長、東京は笹谷事務局長、北陸は松田支部長、関西は里村支部長が参加し、本部には野村会長、宍戸仙台支部長、奥山山形支部長が控え、その他、横井、渡邊、戸石各副会長、阿部事務局長と校友会の樋口氏が加わった。

なお、松田副会長は山形市内の自宅から参加した。

まず、野村会長の挨拶に続き、高橋実行委員長から百年記念祭に関する状況と昨年の実績報告があった。

それを受けて、各支部からは全国で対策に追われているコロナ禍の中で、実際に百年記念祭が実施できるのか、やるとすればどのような状況下でどういう判断をするのか、懸念の質問等がなされた。

感染拡大のステージが下がれば、各支部とも出来得

る限りの参加者を送りたいと念じているが、先行きが不透明では如何ともし難いのが目下の悩みであるとの大方の主張であった。

これに引き続

き、各支部の現状や課題等についての討議があったが、押並べて会員減少や新規会員の確保方法についての話題が多く、各支部ともにこのコロナ禍では、通常の事業活動もままならず、同窓会発展の最大課題である会員増強に手を回す余裕が無きに等しいと見解を述べる場所もあった。

高齢化が進むなか、いかにして若者たちを引き込んでいくか、手立てを真剣に考えていく必要があるとの一致した意見が大勢を占めた。(H.M)



上段：参加メンバー、中段：事務局360度カメラ、下段：宍戸仙台支部長

# 寮歌不滅の快男児

## 五十嵐力さんのご冥福を祈って

鈴井 正孝（文理1回歴史）



五十嵐力さん（第27回文甲）がふすま同窓会で最も輝いたのは、平成7年の75年記念祭の実行委員長を務めたときであった。元最高裁長官の大内恒夫先輩（第19回文乙）の記念講演を皮切りに、ふすまの碑の前で

寮歌を歌い、オーヌマホテルで式典、記念祭歌発表、祝舞・祝宴・神津康雄先輩司会の寮歌高唱を、賑やかに華やかに力強く実施した。

昭和55年頃、勤めていた会社が倒産して都落ちして来たと言いながら、笑っていた。同年の渡辺丞二さんの世話で、山形市城南の「ウエル」という銅線コイルを作る会社の専務取締役の仕事をしていた。五十嵐力さんは福島生まれ、戦時中に神戸高等商船学校に入ったが、戦後中退して山形高等学校の文甲に入りなおし、早稲田大学を卒業した。

時々同窓会館に来て東京で活躍した先輩の話をした。第七代の東京ふすま会長をした武田豊さん（第12回文甲）はもと新日本製鉄の会長、弓の名人で山高3年のときにインターハイ個人優勝、弓道十段・範士である。久米庸孝さん（第11回理甲）は気象庁の予報官で所謂初代お天気博士。同じ回の太田政知さん（文甲）は高橋家に婿入りし、奥さんの土地を売って資金を作り、千葉県浦安の海岸埋め立てに加わり、広大な土地の権利を得て、米国ディズニーとロイヤリティの交渉を成立させて東京ディズニーランドを作り上げた。全国区で活躍した先輩を書き残して伝えてくれと言われた。またあるとき、友人たちとハイデルベルクに行き、古城のワインの大樽を見てペルクオの歌をドイツ語で歌い、ネッカーの河を眺めながら寮歌を歌った、良かったよと言って、お土産の木彫りの人面を同窓会館事務室に飾ってくれた。コーボルト会が中国のコクセル峰に登山したときは、坪井学長に同道をお願いして、山形新聞社を訪ねて応分の支援を仰いだ。寄付は恥じかき汗かき義理欠いて、相手の懐に飛び込んで貰うものだと言って笑った。平成10年頃山形を去って、東京の田中車一郎さん（第20回文乙）の主管する宗教法人国柱会の仕事をしていた。

五十嵐さんがその本領を最も良く発揮したのは

蔵王寮歌祭であった。平成12年山形白線会が主管を退いたとき、東京の寮歌愛好同窓生と語らって蔵王寮歌委員会を立ち上げ、寮歌不滅の大旗を掲げて寮歌祭を継続した。山形駅西口からバスで大学構内の学寮跡の寮歌碑前で芋煮を食し、蔵王上の台のホテル樹林で受付、3時から25前後の参加校紹介、各校代表寮歌の高唱、歌い、飲み且つ食し、屋台に一口そばや山菜の天婦羅、7時から外で蔵王権現のご神火を頂いてファイア・ストーム、翌日は希望者の県内観光、蔵王のお釜、上杉鶴ヶ城、最上川舟下り、羽黒山参詣等、その企画力とおもてなしに至るまで同窓会本部の後輩役員まで動員して、贅と粹を尽し、平成21年の25回で千秋楽とした。

平成28年秋に、五十嵐さんが人工透析をしているという情報が入ったので、野村一芳会長、田宮良一山形支部長、私も加わって3人で入所治療をしている山王のデンハウスにお見舞いに行った。個室の壁に山高の旗を張り、坊主刈りの頭で元気になっていた。4人で写真を撮り、小さな額に入れて帰りに渡してくれた。これがお会いした最後になった。令和3年1月28日に他界した旨、長男の晃様から山高の帽子を被ったカラー写真入りの挨拶状が届いた。戒名は「香華院歌歎日力居士」享年95歳。

五十嵐力さんほど山高を愛し寮歌を愛し、全国の寮歌祭を駆け巡り、歌って飲んで友人を作った人は数少ないと思います。「寮歌不滅」の大旗を掲げたまま、ゆっくりお休み下さい。ふすま同窓会に尽したご功績を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。



2015.10.27 ふすま同窓会95年記念祭に参加時の五十嵐力さん(中央)



# 「ふすま同窓会百年記念祭」の進め方について

記念祭実行委員会 委員長 高 橋 節（人文2回）

## ～母校100年の歴史を紡ぎ、次の100年へと続きます～

「百年記念祭」については、会員の皆様から寄せられた賛金、法人企業からの広告協賛など財源確保が進み、各種記念事業の準備を進めてきましたが、昨年初の新型コロナウイルス感染拡大により、記念式典等行事を「1年延期する。」とされたところです。しかし、1年余り経過した現在においてもその収束が見られず、コロナ関連情報の変化を受けた事業の練り直しを行う日々が続いています。

昨年4月の決定（時期を2通りに分けた進め方）に基づき、計画通りに進めた「ふすま同窓会百年の碑」の建立、学生生活支援施設「ふすまりフレッシュルーム」の設置及び「催事テント」の寄贈については、昨年10月24日（土）に開催した「ふすまの集い」でお披露目することができました。（詳細は、本紙5頁、「ふすま通信」（第10号）を参照ください。）

こうした中であって、新型コロナウイルス感染は、昨夏の第2波、今年初めにかけての第3波と続き、3回にわたる「緊急事態宣言」の発出となるなど、人流を伴う催事開催にとって、依然として厳しい環境が続いています。

1日も早くコロナ危機を脱し、安全な環境下で記念祭を開催するためには、国を挙げて進捗が図られている「ワクチン接種」に期待するところです。ワクチン効果に対する評価や7月末までに高齢者に対する2回接種を達成するという国の方針等を受けて、令和3年10月30日（土）に、コロナリスクを極力回避した実行計画の下で、記念祭事業を開催します。

常任理事会で承認を得た「ふすま同窓会百年記念祭（2021.10.30）リスク管理表」の概略は、下図のとおりです。

案	国	山形県	感染状況	記念講演会	記念式典	記念祝賀会
A				・378席	・319席 ・来賓祝辞 ・校歌寮歌合唱	・384席 ・祝宴 ・祝舞、演舞
B	S I	L1～L2	散発的な発生	・176席 ・リモート講演検討	・135席 ・来賓祝辞 ・校歌等音源活用	・約200席 ・マスク会食等 ・演舞等のみ
C	S II	L3～L4	漸増拡大	・121席 ・リモート講演検討	・90席 ・ビデオ祝辞検討 ・校歌等音源活用	・120席 ・マスク着用 ・時間短縮
D	S III	L5	急増拡大	・50席以下 ・リモート講演	・50席以下 ・映像配信検討	開催中止
E	S iv		爆発拡大	開催中止	開催中止	開催中止

- （注）1. 表中「S」は国の警戒ステージ、「L」は山形県の注意・警戒レベルを表す。  
2. 表中の「席数」は、概数です。（設備等を考慮した詳細設計で具体化していきます。）

具体的には、「B」案を基本として設定します。

より詳細な事業展開は、会報に折り込みました「百年記念祭特集号」をご覧ください。

なお、今後のコロナ感染状況の推移によっては、この方針の軌道修正を余儀なくされる場合も想定してお

くことも必要と考えています。その際は、皆様への連絡はもとより、参加予定者と緊密に連絡を取り合って進めます。

皆様のご理解と更なるご協力をお願いします。

## ふすまの集い

令和2年10月24日(土)に、「ふすまの集い」が行われた。当日はもともと「百年記念祭」が予定されていた日である。コロナウイルス感染症の影響で各種行事が延期となったが、当年中に行えることは実施してこうという思いで、「ふすまの集い」と称して、「百年の碑建碑式」と「ふすまりフレッシュルームの開所式」を挙行了した。

### 「百年の碑」開所式

幸い前日までの雨も上がり晴天に恵まれ、晴れの式典には打って付けの日和であった。

参加者は、大学より玉手学長はじめ是川人文社会科学部長、大西理学部長、清塚キャンパス長、両副学部長など十数名。同窓会関係者は野村会長を筆頭に7名の副会長、鈴木、長沼の両顧問、記念碑揮毫：細谷孝司氏（人文1回）旧山高代表は西村、新田の両先輩、仙台支部の宍戸会長、宮城事務局長に加え、石碑施工業者の㈱ナイガイの米本社長で、総勢は40余名となった。



記念碑揮毫：細谷孝司氏（人文1回）



式辞：野村会長



山高卒 西村、新田両先輩



寮歌斉唱：指揮 宮城仙台支部事務局長

会の進行は、大岩記念碑班長が担当し、野村会長の式辞、玉手学長の祝辞、米本社長への感謝状贈呈、安彦記念事業部長の概要説明、旧山高生の紹介、寮歌斉唱と順調に進み、最後は参加者全員新しい「百年の碑」を囲んで記念写真の撮影を行った。

なお、建碑竣工祝い品として、市内七日町の老舗、三鴻深瀬菓子店製の紅白饅頭が参加者全員に配られた。

また、マスコミからは同窓会員で山形新聞本社勤務の坂本由美子氏の手配を受けた女性記者が取材に訪れて、翌日の紙面に詳細な記事が掲載された。



### 「ふすまりフレッシュルーム」開所式

百年の碑開所式に引き続き、会場を移してふすまりフレッシュルームの開所式が行われた。野村会長、玉手学長の挨拶に続いて、高橋実行委員長より、清塚キャンパス長に目録の贈呈が行われた。司会者（阿部事務局長）より、テント四張り（三張りは建碑式において使用）とリフレッシュルームに備えられたテーブル大12台・小2台・椅子24脚、ソファ4台、パネル15枚、流し台、名入り看板が寄贈されたと紹介がありました。多くの学生に利用されることを期待したい。



高橋委員長より目録贈呈



リフレッシュルーム室内全景（室内を見学する参加者）



## 楽しい輪読会「英書研究会」

札幌支部

昨年コロナウイルスで、何もかも休止になった活動の中で、唯一、会場として利用している、通称カデル2・7が感染予防徹底化のため全面閉館となった2ヶ月（2020年4月、5月）を除けば一度も休まず、議論百出の中で、たった一語の解釈に数十分費やすことも珍しくない、真剣で楽しい150分の3名による研究会。

2015年（平成27年）6月紺谷友昭（文理昭和37年・哲学・第1回テーディマン賞受賞・「山形へ帰る旅」の著者）の発案に遠藤薫（文理昭和43年・経済）と私（文理昭和36年・英文）が賛同しスタート。本年6月会場のビルが再度閉館されなければ、6月例会は70回目となる。

テキストは、2015年6月～2019年6月まで、Thomas MoreのUtopia、1516年ラテン語版のDominic baker-Smithによる英訳本を使用、さらにPaul Turnerの英訳本を副読本として併用。2019年7月から現在まで、Gerge Orwellの1984を輪読中。ユートピアは現代英語の祖とされている、文豪シェイクスピア誕生1564年に先立つこと48年前、さらにMartin Lutherの95ヶ条公開1517年の丁度1年前に公開された、激動するルネッサンスの運動に一石を投じた大作。

一方、ジョージ・オーウェルの1984は一人の独裁者を頂点とする体制を構築するために、現在まで使用してきた、伝統ある国語を否定し、それにとって代る新国語を考案し、歴史的な主要著作物は全て、この新国語に書き替え、さらに外部マスコミ等による諸々の報道も全て独裁者の考えと矛盾しないように書き替えたり、徹底した密告システム、恐怖政治による支配とテロリズムなどの実態が、自由を信じ愛する主人公の目を通して、命を賭けて、徐々に暴露されていく社会派の力作。1984はこの新国語が旧国語に、とって変わる年を意味している。

研究会のすゝめ方は、輪番制で当番の者は、先ず大きな声で音読し、逐語訳でその意味を発表し、最後に可能な限り正確な日本語で内容を述べる。毎月4頁以上消化することを目標とする。

この最後の正確な日本語の部分で、私は必ず、迷い、悩み、同時に思い出す顔がある。時には怒って顔面赤く、今にでも大声でどやしそうな、その人は深町弘三教授です。あららぎ派の歌詠みに憧れて、山形へこられ、他の詩人等との交流も広いだけに、先生の訳語としての日本語は正確で、美しく、きれいで何時も感服させられたものだった。

顧問 石垣祐輔（文理9回）

## 新型コロナ禍“自粛の時を雌伏の時へ”

仙台支部

世界中に蔓延している新型コロナウイルス、人類の疫病との闘いは、歴史上絶えることはないが、科学や医学が進歩して最先端の防御が出来ると見られる現代において、その撃退に苦勞し、事態終息の見通しは未だ明確でない。ウイルスは、日常の生活や諸々の社会活動に対して攻撃的に働き、経験のない対応が求められている。活動の停止、3密の回避、人流を止める等が感染防止対策の中心である。社会の中の一組織としての同窓会も、この事態から逃れる事はできない。この1年6か月すべての支部活動は中止せざるを得ず、会員間の交流機会は閉ざされたままである。情報共有の手段としての会報発行や通信は、組織維持への役割の重要性が増しているが、やや心細さが尾を引く。新型コロナで学習したことの結果として、市民生活をはじめ、産業経済活動の在り方等が大きく変容を求められる時代が到来しつつあることが見られる。社会の一員としての同窓会も、時代にふさわしい変革が求められることになると思う。会員間のそもそもの絆を基として、停滞、自粛の今を、雄飛の未来に向けての雌伏の時として、エネルギーを蓄える機会としたい。新型コロナの渦中、仙台駅頭で見た光景～去年の5月連休（感染防止緊急事態宣言発令中）は、コロナの正体が不明の時で、町中から人が消えた。

【仙台駅の様子】



令和2年5月5日



令和3年5月4日

そして今年（まんえん防止等重点措置発出中）は、平時と変わらない人出が見られる。人間の防御本能が、正体未知の敵への対処と、正体既知のいまの人出の変化は、対応能力が高いといえはそれまでだが、感染拡大状況はなお深刻である。感染防止対策は、過剰反応で対処する位で、命を守ることになると思うのだが。

事務局長 宮城洋三（文理5回）

## 晴れたら、小さな農園で・・・

山形支部

「支部便り」の原稿依頼が4月上旬に届いた。その頃は、締切りはまだ先のことと安易に考えていた。それもその筈、例年、6月開催の支部の一大イベントの小旅行を格好の題材にしていたのだから。しかし、今年は全く違う。昨年の行事はすべて中止になっている。題材は何があるのか？「地域の話」でも宜しいと説明書きにはあったが、身近な氏神様の春祭にも出店はなく寂しい限りで材料にはならない。コロナのせいで困ったことになったぞ！

そこで、小生が借りている本当にちっちゃな農園での「土いじり」を紹介し、山形の食べ物に懐かしさを感じてもらえたらありがたい。ただし、作物の出来はどうかと言うと、始めて数年しか経っていないことや寄る年波のせいもあって物覚えが悪く、努力はしてもまだまだ失敗する人が多い。

その農地は新興住宅地区の中にあり、一番の師匠と仰ぐのは、近くに住む90過ぎの老婆である。手ほどきを受けたことは、春先の土の「天地返し」から堆肥を使った土作りや適切な元肥・追肥、水やり、間引き、それにも増して「連作」を避け、「雑草取り」や「土寄せ」が大切であると。また、最近ではあまり目にしなくなったが「ワラ」や「縄」が資材として重宝するものであること。さらには、雪が積もる冬季には道具の手入れを怠らないと。などなどの極めて基本的なことであった。そもそも、ズブの素人が鍬とスコップだけで始めた農作業だったが、今では必要に迫られて道具や資材も揃い、全景写真のような農園になっている。育てる楽しみのほか、朝採りの旨味たっぷり野菜も今朝も味噌汁の具やサラダ、お浸しにして食卓を彩った。

初夏の今、秋野菜の作付けをいろいろ思い巡らしている。あと数年、気力・体力の続く限り、晴れた日にはお茶と菓子を携え、いそいそと野菜と花の「野良仕事」に出かけよう。



野菜 22 種花木 14 種を育成中、成長すると「三密」になってしまいそう。

支部長 奥山隆夫（文理18回）

## 西の国から

関西支部

2021年支部総会は1月24日（日）自宅から参加による初のオンライン方式で開催いたしました。

ふすま同窓会百年記念テーマ「伝統を紡ぎ未来に続く」を実現するには若い人の参加が不可欠です。そこで現状勢をプラスに転じてオンラインなれば実現出来るのではないかと考え、昨年末の米沢工業会関西支部総会や学長の話のhintに若い同窓生に主役になってもらうにはどうすればいいのか色々考えました。実現には校友会樋口事務局長、関西支部塚原繁美さんの2人に多大の支援を頂きました。その結果、地域や年代の枠を超えた17名に参加頂きました。司会進行は関西支部塚原繁美さんが引き受けてくれました。留学先の台北から参加の台湾大学大学院修士課程在学中の2018年卒業茂木康さん、東京のベンチャー企業勤務の学生circle「Yai!」元編集長の2018年卒業菅野智佐さん、判例もない中「同性婚」をテーマに挑戦する学生circle模擬裁判実行委員会委員長菅野光平さん、free paperを通して山形への愛を発信する学生circle「Yai!」前編集長猫塚ゆめさんがそれぞれ活動報告を行ってくれました。米沢工業会関西支部から吉田支部長など3名、ふすま同窓会から札幌2名、本部2名、校友会1名、東京2名、関西3名が自己紹介、近況報告などを行いました。

今回のvirus畏るべしということも実感しました。関西ふすま同窓会、長年の総会会場神仙閣大阪支店が昨年末で閉店致しました。関西有数の中華料理店でした。米沢工業会も同様だそうです。Face to Faceが可能になれば、新しい会場を探すようにします。

参加者からは次のような感想が寄せられました。

- (1)オンライン会議の可能性を実感出来た。
- (2)若い同窓生からは、同世代としか接点が無かったが今回の参加で先輩の皆さんが応援してくれていることを知りました。
- (3)後日模擬裁判実行委員会委員長菅野<sup>かんの</sup>光平さんには里村が交流もあるオーストラリアの2組の「同性婚」カップルなどの実例をmailでお知らせしました。菅野さんからは参考になった旨の返事を頂戴致しました。

今回の同窓会を通じて、私は支部モットーを次のようにしたいと考えました。

「誰もが得意技を活かし、若人を主役にする場に」

支部長 里村義征（文理14回）



## 「東京ふすま会の活動報告」(初のZOOM会議の開催)

東京ふすま会

昨年度は4月のコロナ禍による緊急事態宣言以来、世の中の多くの活動が制限されテレワークの導入で生活スタイルが様変わりしてしまいました。

これにより参加型の東京ふすま会の活動も、ことごとく影響を受け、会報『乾坤』の3回の定期発行と、規制の間隙をぬって人数制限で実施した11月の懇親芋煮会のみでした。

新年度に入り変異株の拡大で先行きの見えない中、4月25日から5月11日まで間3度目の緊急事態宣言が発令され、ゴールデンウィークは自粛を余儀なくされました。

それでも感染拡大は収まらず、宣言は延長され現在も継続中である。

一方ワクチンの接種が医療従事者から高齢者へと順次開始され、大都市では大規模集団接種会場の設置も決まり、徐々に体制が出来つつあることに安堵し、期待している。

さて新年度のスタートは例年、5月の総会であるが、総会に諮る活動報告と計画案を常任理事会で議論する必要がある。

昨年はやむなく議案を郵送し、意見を文書にて回答してもらう方式をとったが、今年も状況は変わらず集合方式はとれないが、我々は一歩前進していた。

1月にZoom形式での関西支部の総会兼新年会があり、そこに校友会の樋口事務局長の配慮でオブザーバーとして体験参加させていただくことが出来たのだ。

この経験をもとに、2021年度東京ふすま会第1回常任理事会をZoom形式で実施することが出来た。

常任理事会 4月24日(土)10時30分から実施され、2020年度事業報告・決算報告、2021年度事業計画案・

予算案、2021年度総会中止の件を討議し、参加者全員の承認で採決された。常任理事会メンバーは30名であるが、当日の参加者は20名、リハーサルに参加者を含めると25名が対応できることが判明し今後心強い限りである。

第2部では昨年できなかった新任常任理事8名からの自己紹介があり、日中であつたが各自飲み物を持参し懇親を深めることが出来た。久しぶりの美味しいお酒であつた。リモート飲み会も悪くない。

今年度も予定事業は見学会、懇親芋煮会、新年懇親会とあるが、コロナの様子見で下期に集中させた。

また会報『乾坤』は次号が150号の記念号となるため、皆様の協力で特集号にしたい思います。多くの方の投稿をお願い致します。

さらに今年度最大のイベントは(昨年延期された)10月30日(土)山形で行われる『ふすま同窓会百年記念祭』である。

まだ先が見えない状況であるが、開催までにはワクチンの普及で安心して盛大に実行できることを楽しみにしたい。

東京ふすま会メンバーの佐藤夏雄さん(理1)が記念講演をするのを楽しみに同期会・ゼミ会・部活同好会等を企画して東京からは勿論、全国から大勢で集まろうではありませんか。

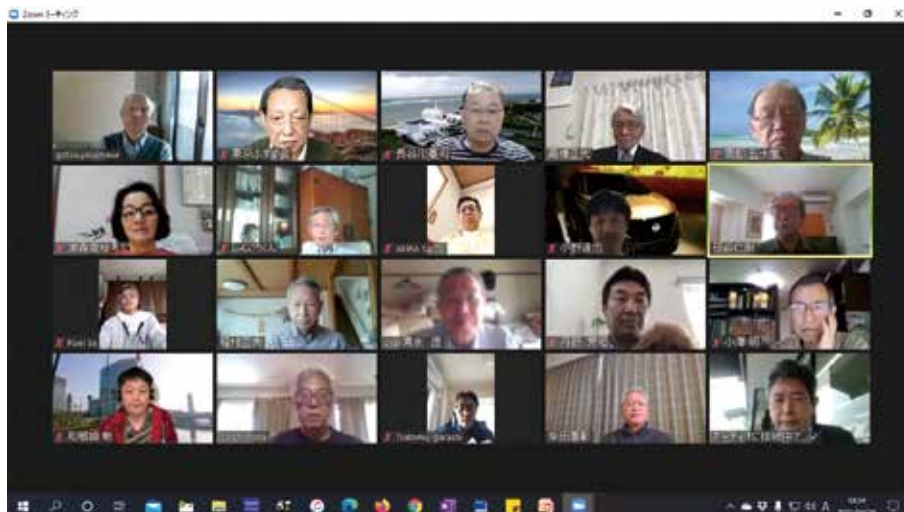
HP: <http://www.tkyfusumakai.jp> も是非ご覧ください。

## 〈お問合せ・連絡先〉

TEL&amp;FAX: 03-5378-5005

Eメール: [tkyfusumakai@tkyfusumakai.jp](mailto:tkyfusumakai@tkyfusumakai.jp)

事務局長 笹谷仁則(人文1回)





## 北陸・福井大学からの近況報告ーコロナ禍の中でー

北陸支部

福井大学に勤務している大山です。出身は山形で昭和54年度に理学部生物学科を卒業し、名古屋で6年ほど過ごした後、福井大学教育学部に生物学担当教員として赴任しました。それ以来30年以上、福井で教員養成に携わってきました。しかし、令和4年度をもって定年退職となりますので、その後は年老いた父親がいる故郷に戻るつもりでおります。

10年以上前ですが、当時福井大学工学部（生物化学工学科）で教授をしておられた永長幸雄先生にお声がけいただき、ふすま会北陸支部の懇親会に参加させていただきました。金沢にお住まいの大先輩方にお目にかかることができとても感謝しております。その後も何回か懇親会にお誘いいただきましたが、ここ数年は校務と重なり参加が叶いませんでした。さらに現状ではコロナ禍が終息するまで交流は難しいのではないかと思います。

私は大学で専門の授業を担当するかたわら、附属学園の運営にも関わっています。附属小学校の校長、さらに小中一貫となった附属義務教育学校の校長を務め、現在は附属学園長として附属幼稚園、附属特別支援学校も含めた運営にあたっています。昨年からのコロナ禍で附属学園も感染症対策にかなりのエネルギー

を使ってきました。幸いにも児童生徒も含めた学園関係者に感染者は出ていませんが、福井県内の小中学校でクラスターが発生したケースもあり、気が抜けない状況です。福井大学では学生の感染者が数名出ており、4月是对面の授業が限定的に再開されましたが、再び可能な限りリモートで授業を行うことになりました。

昨年からキャンパスの風景も様変わりしました。受講者の多い授業は全てオンデマンド方式かWEB会議システムを用いたものになっています。会議もほとんどがリモートで行われています。たぶん山形大学も似たような状況だと思います。ICTに疎い定年前の教員としては、オンデマンドの授業づくりは多くのエネルギーを使う割に充実感が希薄で、学生の顔が見えない分、不安を抱えながらPCに語りかけているところです。

現代はブーカ「VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)」の時代とも言われています。新型コロナのパンデミックでまさに予測できない曖昧な時代に入ってしまったという実感があります。ただ、新型コロナの感染拡大当初から私たち生物屋が予測できたことは変異ウイルスの出現で、それが現実のことになってしまいました。コロナ禍の早期終息を願うばかりです。

大山利夫（理学10回）

## 学生・学部等への支援・協力事業

ふすま同窓会では、「学生後援・大学交流費」の支出項目で毎年250万円を予算計上し、様々な支援事業を展開してきております。これは、一般会計全体の約20%を占め、「会報・通信作成費」に次いで大きな額となっています。

この額が毎年度確保できるようになった背景には、平成24年度の会則改正により、入学時の学生終身会費（2万円）の納付制度が創設されたことがあげられます。これに伴い支出面でも、学生・学部を恒常的に支援する様々な事業が実施可能となり、学生・学部の応援団としての機能が果たされているものと思っています。

次に、学生等支援事業の全体概要について、会計と事業の両面から紹介したいと思います。

最初に会計処理についてです。学生終身会費分を、一般会計で受入収入し、このうち一定額（通

常250万円）を「学生後援・大学交流費」として「学生支援基金特別会計」に支出（繰出）します。この繰出金を原資として、特別会計の中で様々な支援事業を実施しております。予算に計上した額は、当該年度で全額有効活用することを基本としていますが、海外留学支援など年度による差があることなどから、繰越金が生じるケースも出てきています。

次に、実際の支援策について紹介します。

## ①海外留学支援

人文社会科学部では、異文化コミュニケーション事業や海外チャレンジ支援プログラム事業として海外留学事業が行われています。また理学部では、外国での研究論文発表会への参加事業等が実施されています。語学研修はもとより、諸外国の政治文化経済情勢等に実際に触れ合うことでより

成長することを狙いとしており、この留学経費の一部を支援してきております。特に人文社会科学部では、グローバルスタディーズコースの設置により、海外研修が授業の一環となり、今後ますますの留学機会と人員の増加が見込まれています。また、帰国後行われる報告会には、同窓会員も参加して、学生たちと体験情報を共有することも大きな意義があると思っています。

## ②模擬裁判支援

毎年、人文社会科学部を中心とする学生が実行委員会を組織し、その時代に即応した題材を選出し、脚本、舞台等創意工夫しながら、すべて自分たちの力で仕上げています。昭和48年に産声をあげて以来、令和2年度で何と48回を数えることとなりました。当日はマスクを着用しての熱演でありました。

我が同窓会では、開催経費を支援する一方、模擬裁判のパンフレットに同窓会のPR記事も掲載しております。なお、歴代の委員長さんが、よく同窓会館に顔を出し、懇談。我々とは50歳前後の年齢差があるにもかかわらず、話に花が咲き、とても楽しいひと時を過ごしております。

さて令和3年度の模擬裁判は、「同性婚」というこれから本格的な議論がなされるだろう題材で、より深く掘り下げた裁判劇にしたいとの話も聞いております。なかなか難しいテーマではないかと思いますが、コロナに負けずに頑張りたいです。公演を楽しみにしています。

## ③安達峰一郎記念世界平和弁論大会への支援

山辺町出身で常設国際司法裁判所所長を務めた安達博士を顕彰し、かつ平和の意義を考える目的で開催される中高生の弁論大会に、同窓会長賞を贈呈して支援しております。

## ④八峰祭支援

毎年10月下旬に実施している八峰祭（大学祭）の開催支援として協賛金を支出しています。

## ⑤ホームカミングデー支援

ホームカミングデーは、社会人となった先輩を招き、学生との交流の場を設定する事業であり、このパンフレット作成経費等を支援しています。

## ⑥学習環境整備支援

学生の学習環境の整備を支援する視点で、毎年両学部副学部長の協力を得て専門委員会を開催し、内容協議・決定をしています。最近ではコロナ禍で海外留学が困難な状況下でもあることから、この学習環境整備事業への支援の機会が増えてきております。

⑦上記の他、毎年、両学部の学業優秀学生を表彰するとともに、理学部の優秀卒業論文表彰に対しても経費支援をしております。

## 【参考】

最近の学習環境整備の事業・支援内容は下記のとおりです。

◎S401番講義室にプロジェクターを設置し、「ふすまホール」と命名。【H28、理】

◎LL教室に会議用机・イスを設置し、「Fusuma Language Lounge」と命名。【H30、人社科】

◎Fusuma Language Loungeの床タイルカーペットの張替え。【R元、人社科】

◎ブックスタンド・ホワイトボード、3台購入。【R元、理】

◎コロナ感染症対策でフェイスシールド贈呈。9月には是川人文社会科学部長と大西理学部長に各部100枚の贈呈式。【R2、人社科・理】



両学部へのフェイスシールド贈呈式

◎マイク・ミキサーの未設置教室への整備支援。【R2、人社科】

◎ふすまホールに、モニターテレビ（55インチ）、2台設置。【R2、理】



ふすまホールに寄贈したモニターテレビ

以上、学生・学部等への支援・協力事業の主なものについて紹介しました。

これらの事業を通して、学生に元気を届けられたら良いなと思っています。

阿部慎一（人文4回）

## 山形大学への入学動機・大学生活

理学部化学コース3年 佐藤智恵理



私は中学時代から、私たちの身近に存在し、人の命を支える「薬」について興味がありました。また、高校時代に受けた課題研究の授業の中で、自分たちで課題を設定し、実験をして考察をするという研究の面白さを経験し、研究をもっとやってみたいという気持ちが強くありました。そのような理由から、将来は薬の研究に関わる仕事がしたいと考え、大学ではその仕事に生かせる知識を学びたいと思いました。

私が山形大学理学部を進路先として意識したのは高校の進路学習の一環で研究室を訪問したことがきっかけです。訪問先で先輩方のお話を伺い、研究内容にとっても興味を持ちました。そこで、ここでは自分のやりたい事ができ、将来の夢に近づくことができるかもしれないと感じ、最終的に入学を決めました。私は現在、理学部の化学コースへ進み、様々な化学の分野を学んでいます。学年が上がるにつれて授業の内容も専門性が高まり、難しく感じることもあります。それ以上に自分が興味のある分野を学ぶことの楽しさを実感しています。

課外活動では「フリーペーパーサークルY-ai!」というサークルに所属しており、編集長を務めています。サークル活動では企画、取材、編集などを全て学生の手で行い、年に2回フリーペーパーを発行しています。私はこれまでに「代表」という、集団をまとめる立場を経験したことが無かったため、初めの頃は不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、先輩や後輩、Y-ai!がお世話になっている沢山の方々から支えてもらい、今では編集長として、先輩方が築いてくださったものを受け継いでいきたいという前向きな気持ちで活動しています。時には大変だと感じることもありますが、とてもやりがいのある活動です。Y-ai!の発行の他にも、県議会議員の方々と意見交換会やテレビ出演など、沢山の貴重な経験もさせていただきました。サークル活動を通し、私自身が成長することができたと感じています。

私はこれまでの大学生活の中で、授業での学びはもちろん、様々な活動を通して多くのことを学びました。大学生活で得られたものはこれからの私の宝物になると思います。夢を叶えるために挑戦を続け、多くのことを学び生かしていきたいです。



## 山形大、台湾大での学び

国立台湾大学社会科学院政治学科 修士課程 茂木 康

2018年に人文学部法経政策学科公共政策コースを卒業しました、茂木康です。

現在は国立台湾大学社会科学院政治学科修士課程にて、立法委員(国会議員)選挙を研究しております。2年間に渡り中華民国教育省から奨学金を満期分頂き、3年目の現在は中華ロータリー米山会奨学生として研究を続けることができています。

国際事情に関心を持つようになったのも、海外の大学院で学ぶための基礎学力を身につけることができたのも、ひとえに山形大学が私にくださったご指導及びチャンスによるものであり、深く感謝の念を感じる次第であります。

### 一、山形大学での学び

山形大学では、メールの書き方から法律経済政治の専門分野に至るまで、多くのことを学ぶことができました。メールの作法は、日本に留まらず台湾でも大いに役立っており、目上の方々との交流における重要な基礎となっております。専門分野の内容も、エリート学生との討論や研究分野の深い理解には欠かすことのできないものです。

2年生から3年生にかけて短期派遣留学生として、台湾師範大学に1年間留学させて頂いたことも非常に貴重な経験でした。目の前で目の当たりにした蔡英文総統当選の瞬間、中国語の学習、友人との交流、どれも忘れ難い思い出です。

### 二、台湾大学での学び

台湾選挙研究の権威である王業立教授の指導の下、目下卒業論文の執筆に取り組んでおります。研究テーマは、国会議員候補者公認制度における中国国民党、民主進歩党及び日本の自由民主党間の比較研究です。



2020.10.13 立法院院長を表敬訪問

研究のためによく立法院(国会)を訪問しますが、立法委員、秘書の皆様には国民党、民進党を問わず、親切にご対応頂いております。また、留学生組織代表として游錫堃立法院長(国会議長)を訪問させて頂いたことは忘れられません。

### 三、学生から社会人へ

学生である自分は、山形でも台湾でも多くの方々に格別のご指導を賜ることができました。心より感謝申し上げます。頂いた応援に背くことが無いよう、まずはしっかり修士の学位を獲得し、社会人としての一歩を踏み出すことができるよう、精一杯努力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 置賜に住んで

柿崎 悦子 (理 13 回)

秋の日に、小白川キャンパスに足を運ぶ機会を得て構内を歩いてみました。イチヨウの幹は太くなり、それに比して小さなかわいらしい黄色の葉が日暮れの西日の中で光り、はらはらと舞ってきます。すでに卒業後35年以上は過ぎ、この間、高校教育一筋の道でしたが、ふすま同窓会からの思いがけないご依頼に、学生時代にお世話になった皆様や生物学科で共に学んだ仲間を思い出しながら書いてみようと思いました。

私は卒業後、山形県置賜地方で暮らしています。置賜は県の南部に位置する盆地で、夏は暑く冬は豪雪です。米沢市からは、南は吾妻、西に飯豊、東は蔵王、北には朝日と雄大な連峰と、朝日の奥には月山を望むことができます。今、窓の外は雪が降り続いていますが、5月の連休頃になると、真っ白な飯豊と月山、雪融けによって白の縦縞模様になる大朝日岳や白馬の騎士が現れる吾妻と、それぞれの山が違った景色を見せてくれます。置賜へは、上杉神社周辺の歴史観光や温泉での癒し、秋のブドウなどの果物狩りや峡谷での紅葉狩り、パウダースノーの天元台スキー場などや、美味しい食を求めて訪れる方も多いでしょう。地元目線で置賜の自然の一コマをご紹介します。

鳥のさえずりと共に季節が変わる頃、ミズバショウ群落がある飯豊町へ車を走らせます。眺山放牧地を抜ける道からすぐのところであって木道も整備され、川の流れに沿うように清々しい白い苞が続きます。飯豊町は「日本一美しい日本の村景観コンテスト」で最優秀賞を受賞しました。小国高校からの帰り道、眺山から見える散居集落の灯りが温かく、家路を急ぎながらもその景色を楽しみました。

小国町叶水地区の横川ダムの風景にも心を奪われます。雪融け水のなかに浮かぶ木々の姿がとても美しく、叶水小中学校に向かう途中で写真を撮りました。水没林は幻想的な雰囲気があり人気のスポットですが、雪国ならではの景色です。



初夏は山開きの季節です。昨年までの勤務校であった米沢興譲館高校では、以前西吾妻山登山がありました。秘湯新高湯温泉を横に見て急斜面を登り、その後はリフトを乗り継ぎ、人形石を通り過ぎて梵天岩を目指します。その途中に湿原があります。その年は、案内の方も驚く程、ワタスゲの

花被片の白い綿毛で一面おおわれていました。木道に並ぶ生徒と共に撮った写真があったのですが、長い年月の間に紛失しご覧いただけないのが残念です。



本校校歌の作詞者は卒業生で、「泣いた赤鬼」の童話でご存じの浜田廣介先生です。高畠町からのつづら折りを抜け、山形県と宮城県が眺望できる鳩峰峠の頂上に「むくどりの夢」の石碑があります。ススキの穂が風になびき、山の秋を感じていたところナデシコを発見し驚きました。花卉の先が細く分かれており、寒冷な地域に分布する種なのか、鳥か何かに運ばれてここまで来たのか、今となっては分かりませんが、丁寧に観察すればよかったと思っています。こうして、生物たちは生息域を広げていくのだと感じました。

秋の紅葉は、ナナカマドの有無によってだいぶ印象が異なります。吾妻スカイバレーの錦平は圧巻で、例年紅葉のピークにはたくさんの方が訪れます。私は、そこに行く道沿いの葉を落としたダケカンバの姿が気に入っています。枯れているように感じる人もいるかもしれませんが、私は、その白色に近い樹皮に、雪を迎えようとしている力強さを感じます。

初雪が降ると庭木の冬囲いのことで気がもめます。その頃採れるナメコは美味しく、その採取場所は人には教えず、父も白鷹町から朝日山系方面に行っていたようですが、私が大きくなったら連れて行ってあげると言ったきりでした。数年前にヤマブシタケを頂いた時は、その形状から皆いぶかしげでしたが、味やにおいはなく独特な歯ごたえで、吸物にしました。

日常の身近な何気ない風景が、ある瞬間、心に残る一コマとなり豊かな気持ちにさせてくれる時があります。それは、どなたでも経験していっぱいあります。置賜の観光案内のような体になり恐縮ですが、この新型コロナウイルスが心配される世の中でも、自然は変わらずに私たちを迎えてくれます。皆様の豊かな時間が多くありますよう、そして健康でお過ごしくださいますようお願いしております。

# 模擬裁判の意義とこれからに向けて

第47代模擬裁判実行委員長 小林 優恭（人文社会科学1回）

ふすま同窓会百年記念という一つの節目にあたり、同窓会の益々の繁栄とともに私が大学生活の中心を過ごした模擬裁判実行委員会の今後の発展のため、より深く知ってもらい、これからも皆様に公演を見に来ていただけるよう意義と課題について述べたい。

模擬裁判公演は昭和48年から山形大学模擬裁判実行委員会が主催となり、刑事、民事、行政裁判でその時代に即した法律問題や社会問題を幅広く取り上げてきた。市民の皆様に裁判を身近に感じ、理解を深めて頂くということを趣旨に活動している。

私は委員長という大役を一年間取り組み、当然のことではあるが1、2年次の時には感じられなかったこと、上手いかないこと、自身の至らない点など多くの面から「人をまとめるということ」の難しさを学んだ。



模擬裁判実行委員会は他大学でも形式は異なり存在するが、山形大学模擬裁判実行委員会は、「与えられて動く」のではなく「自分にできることをあらゆる角度から考え」活動する点に特徴がある研究機関であると言える。

模擬裁判の役割について、またまもなく迎える50回公演に当たり模擬裁判の発展につなげるためのこれからの課題について述べたい。

まず、模擬裁判の役割としては「社会問題に対する動機付け」が主要な点であると考えます。私が広報活動に携わった時には「無関心を関心に」という点を柱に掲げ1つでも多くの報道機関や身近な人に存在を知ってもらえるよう取り組んだ。私の代以降もこの役割は変わらないと思う。

課題については、50回公演という節目に向けて以下の点が改善・向上の余地があると思う。

第一に、広報活動の取り組みについてである。模擬裁判実行委員会は過去4～5年の間にこの広報活動の懸命な取り組みにより毎年来場して下さる方や認知度

の向上により来場者数が伸びていることもあり、委員会の活動に一定の影響を与えている。しかし、近年は平日開催や会場の変更などの問題点が重なり現在の活動を維持するだけでは限界があると実感する 때가あった。そのため、既存の公演協賛機関に向けより当委員会の活動の意義を発信することで協賛機関の関係先から協力を得て活動の幅を広げるなどの構想を練ることが可能と考える。



第二に、委員一人一人のモチベーションの維持・管理である。規模が大きい当委員会では、一人の負担が減る一方で、役割を持たない・持つことができない人が存在し、入っている意味を失い辞めてしまうケースもある。そこに求められる点として、縦横の関係にとられることなくしっかりと意見を言い合える環境を作り一人一人が居心地の良い、なおかつ必要とされていることが実感できる機会を多く設けるべきである。具体的には、日々行われる活動の中で中心として支えるメンバーから声をかけ最大限のリスペクトを心掛け、委員に「この場所なら成長できる」といったプラスの意識を芽生えさせるようコミュニティの構築が基盤にはあるが、積み重ねていくことが必須である。

ふすま同窓会の益々のご発展を願うとともに山形大学模擬裁判実行委員会の活躍を期待し、陰ながら力になればと思う。

今年（令和3年）3月に卒業され、社会人として活躍されている小林優恭さんからの寄稿です。



## 三鷹市中央通り、亀井勝一郎文学碑

田 宮 良 一（文理10回）

中央線三鷹駅南口から走る中央通り商店会は、平成4年、三鷹市ゆかりの文人の文学碑を4基建立した。そのひとつに、亀井勝一郎（山高4回文乙）と親交が深かった太宰治を合わせた文学碑がある（他に三木露風、武者小路実篤、山本有三碑）。上京時、三鷹へ寄り道しようとしたが果たせなかった。

平成30年、ふすま同窓会百年記念写真誌編集を仰せつかったが、戦後、まだ貧しかった文理学部時代の写真収集に苦慮していた。そこに現れた助け舟が東京都の南部郊外にお住いのKさんだった。

Kさん宅に貴重な写真借用でおじゃました折、案内を乞うて三鷹駅に降り立ち、中央通りに歩を進めた。文学碑があるからには、街路樹の茂る静観な街並みをイメージしていたら、そこは、昭和の山形駅前を田舎風にした生活臭濃い商店街だった（山形産なる蕨を商う八百屋があった）。退屈きわまりない繁華街を持つ山形市民の立場からはうらやましいかぎりだが、肝心の文学碑は街の風景に溶け込んでいない感じを受けた。

芸術院会員となる亀井勝一郎（明治40年—昭和41

年）と人格喪失の太宰治（島津修治、明治42年—昭和23年）、お互い接点はなさそうだが、函館銀行支配人を父に持つ亀井、貴族院議員を父とした太宰は、富めるが故の後ろめたさに悩んだようだ。

共に東京帝大文学部中退、左翼運動で挫折し、日本浪漫派の結成に参画した。玉川上水に人妻と入水するまで三鷹に仮寓した太宰は、吉祥寺に住んでいた亀井のもとをしばしば訪れ酒を飲み交わしたという。



写真は、やや場末に置かれた亀井・太宰文学碑  
本の見開きには太宰の代表作『斜陽』、中段に亀井の『三鷹村下連雀』の一節がそれぞれ刻まれている。

### ◇ 穀様し ◇

鳥海月山両所の宮の随神門の傍らに梵天竿が立てられている。その下、地中に穀物や野菜類が埋められ、その腐敗具合で翌年の豊凶を占う神事「穀様し」が行われている。神事は康平6年（1063）に両所宮が勧請された当時から、旧暦6月末日に行われてきたもので、古式をそのまま伝えてきて貴重な行事である。豊凶を占う神事は他地区でも行われているが、両所宮のような神事を行っているところはないようである。昨年は9月7日に開く（穴を掘り、昨年埋めたものの腐敗の状態を見て翌年の豊凶を占う）の儀、8日に納め（穀物や野菜などを埋める）の儀が行われた。現在は農作物の育ち具合を見て、8月下旬から9月上旬に実施されている。



豊凶を占う行事「穀様し」が、昨年11月に山形市無形民族文化財に指定された。

## やまがた街角スナップ ⑪

### ◇ 山形鑄物発祥の地 ◇



山形鑄物は、平安時代源頼義が奥羽平定のため山形地方を転戦し、そのとき従軍した鑄物師が馬見ヶ崎の土と砂が鑄物に最適であることを発見し、何人かがこの地に留まり従事したのが始まりとなっている。その後、室町時代になって山形城主となった斯波兼頼の庇護を受け発達してきた。その後山形城主となった最上義光が城下の再編を行った時に北部に流れる馬見ヶ崎川左岸に鑄物師たちを移住させ、「銅町」と命名された。

昭和年代に多くの鑄物工場が西部工業団地に移転して、寂しい感じがする。

現在の道路は、紅花国体に向けて、落合のスポーツセンターの方から両所宮角のところまで拡幅された。その後、両所宮角より南方も拡幅され現在に至る。

山形鑄物の発祥の地であることを記念して、モニュメントが作成され道路の傍らに設置されている。

（H. O）





## 「ふすま文庫」令和2年7月～令和3年6月

令和2.7.8 コプタン No47 .....	須貝光男(須貝光男寄贈)
8.17 寮歌は生きている .....	寮歌保存会(石山達夫寄贈)
〃 山形市芸文協のあゆみⅠ～Ⅲ他 .....	芸術文化協会(石山達夫寄贈)
10.23 山の神・鮭の太助譚・茂吉 .....	村田弘(村田弘寄贈)
11.25 地域社会研究(創刊号～終刊号・31冊) 研究集録集 .....	本間惣太郎(本間惣太郎寄贈)
11.27 ゲーテ ファウスト第一部・第二部(下) .....	阿部次郎訳(太田裕士寄贈)
令和3.3.31 月は東に日は西に .....	内田敏明(田宮良一寄贈)

### 各学部の退職教員

・人文社会科学部人間文化コース	・理学部生物学分野
新宮 学教授 (令和3.3.31)	長山 俊樹教授 (令和3.3.31)
佐藤 香准教授(令和3.3.31)	・理学部地球科学分野
・人文社会科学部グローバル・スタディーズコース	丸山 俊明教授 (令和3.3.31)
西上 勝教授 (令和3.3.31)	柳澤 文孝教授 (令和3.3.31)

## 深 悼

心からご冥福をお祈り申し上げます  
(令和3年5月まで受付分)

山高20回文甲	新関 恒助 30	山高27回理科	国井 乙彦 02.08.17	文理7回・文・経済	澁谷 悌治 03.02.22
山高20回理乙	加藤 達郎 02.07.23	山高27回理科	野川 幸吉 31.03	文理12回・理・物理	加藤 康夫 03.02.02
山高21回理甲	大沢 正義 01	山高28回文甲	白畑 悟 02.08.18	文理12回・理・物理	植野 勝義 02.07.14
山高22回理乙	矢吹 清一 17.11.06	山高28回理科	鈴木 弘也 02.01.17	文理12回・理・物理	山内 淳 02.05.19
山高23回理甲	糸井 滋 01.09.30	山高28回理科	稲葉 八雲 02.05.23	文理13回・文・英文	道券 諦 30.11.14
山高23回理甲	高橋 一夫 02.06.01	山高28回理科	内藤 恒吉 01.12.29	文理13回・文・経済	大内 清治 03.05.03
山高23回理甲	鈴木 晴之 02.09.09	山高28回理科	水戸 省吾 不明	文理15回・理・数学	高橋 富男 02.08.20
山高23回理甲	永野 健一 02.09.05	山高28回理科	吉田 浩一 02.01.04	文理18回・文・経済	後藤田恒彦 02.11.15
山高23回理乙	庄司 功 不明	山高29回理科1	田中 達 30.03.22		
山高24回理甲	藤原 雅一 不明			人文2回法律	守屋 出 02.04.08
山高24回理乙	大沼 貞雄 不明	文理1回・文・英文	吉江 正夫 不明	文理18回物理	富田 尚文 31.02.14
山高25回理甲	小松 隆 02.03.22	文理1回・文・経済	熊倉 直 不明		
山高25回理乙	沼部 治夫 02.05.07	文理2回・文・国文	塚本 信夫 03.04.15		
山高26回文甲	逸見 弘 31.03.21	文理4回・文・国文	菅原 功 不明		以上 43名
山高26回文甲	阿部 清三 29.01.17	文理5回・文・経済	鈴木 孝男 02.11.16		
山高26回文甲	後藤 欣也 02.02.12	文理6回・文・国文	井上 尚 03.04.25		
山高27回文甲	五十嵐 力 03.01.28	文理7回・文・経済	関東 義幸 02.11.30		

## 本部事務局通信

新型コロナウイルスの第3波・4波の襲来を踏まえて、ここ山形市においても、県との共同による独自の緊急事態宣言（4月25日解除）が出されました。

また、我慢…我慢…。

こうした中、本年が百年記念祭事業待ったなしの状態でもあることから、緊急事態宣言期間中ではありましたが、解除日の前日での常任理事会の開催を決断しました。百年記念祭事業を含む事業計画及び予算案の決議が最優先課題であったからです。

しかしながら恒例の同窓会館での開催は、3密対策の観点から困難であると判断し、東部公民館の講堂を借りての常任理事会となりました（前代未聞の経験!）。さらに、昨年に引き続き、総会では中止せざるを得ない状況も承認されました。会議自体は順調に進み、10月30日の百年記念祭についても出席者一同決意を新たにして

準備を進めることとなりました。もちろん、今後のコロナ感染状況の推移を十分斟酌しながらの準備となりますが……。

次に、平成年度での第1回（23年度）以来、4回目となる「支部長会議」は、総会の開催予定日（5月15日）に開催。zoomを活用した初めてのオンライン会議でした。

全国の支部長さんの参加と、かつ新兵器（360度音源対応カメラ）持参の校友会事務局長の樋口氏（同窓生）の協力により開催できました。冒頭、多少のアクシデント（同窓会館内複数のPCの同時活用が原因?）はありましたが、その後の会議はスムーズに進み、無事終了（ホッ!）。皆さん、お疲れ様でした。

オンライン会議は、コロナ禍でなくても十分活用できる、有益な会議アイテムであることを、今回改めて認識しました。

同窓生の皆さん、“コロナ”対策に万全を期してお過ごしください。事務局長 阿部慎一（人文4回）

## 広報部員のつぶやき

理学部教授だった柳澤文孝先生がこの春、退官された。樹木研究の第一人者で、自分が地球科学科の学生だったころ、研究室でお世話になった恩師だ。成績不良学生だったため、残念ながら大学で習得するはずの専門知識を生かせる環境系の職業には就けなかったが、山形新聞の記者となってから、樹木にみる環境異変の取材で再びお世話になった。間接的にだが環境系の仕事のできたのも、柳澤先生のお陰だ。柳澤先生は4月以降も山形大の蔵王樹氷火山総合研究所副所長として研究を続けられ、現役なのだが、恩師の退官という節目に、寂しさと感謝の思いが胸に迫った。坂本由美子（理学28回）

神奈川県に住んでいる1歳半になる初孫と、週に一度ビデオ通話をするのが楽しみである。山形県と神奈川県、コロナ禍以前であれば気軽に行き来できた。それが今では、かわいい孫にもなかなか会えない。

去る4月、その孫と1年ぶりに会うことができた。会って驚いたことは、想像以上にまだ小さい。1歳半なのだから当然である。ビデオでその大きさを実感できないだけなのだろう。あるいは実感できる手法ができていないだけなのか。思いは多方面に渡る。

渡辺雄二（理学14回）

コロナ感染者の増加が止まる所を知らない状況が続く、社会全体があらゆる活動の自粛を強いられて1年以上が過ぎようとしている。私もなるべく人が多く集まる場所へ行くことを避けながら我慢の時を過ごしてきた。

ここに来てようやくワクチン接種が本格的に始まり光明が見えてきたので、早期に若年層まで広く国民全体の接種が本格化し、社会生活の正常化を期待するとともに、国産ワクチン開発の成功による来年以降での安心を祈る毎日です。片岡卓爾（理学5回）



今年は3月より、ウォーキングを始めた。5時頃より一万歩を目標に散策をしている。みどりの日に蔵王を散策した。休日なので多くの人と出会うのか心配であったが、出会う人もなく若葉の芽吹き、さわやかに吹く風などを楽しみながら散策した。沢に入ってみるとコゴミが出ていた。結構太く立派なものである。夕食時に天ぷら、和え物など楽しみに一袋収穫をした。たまにはいつも歩いているところでなく、山を散策するのも良いものだ。太田裕士（理学1回）

## 編集後記

このところ、世の中はコロナ禍の中で動いておりますが、同窓会の総会も2年続けて開かれず、延期した百年記念祭も楽観出来ぬ状況にあります。しかし、オリンピック同様実施しない訳にもいけません。

実行委員会も本部事務局も決意を新たに開催の方向に突き進んでおりますので、是非ともこの災いが転じて良い結果を生みますように心から念じている今日この頃です。松田博之（文理13回）

### ふすま同窓会報 第69号

発行者／ふすま同窓会 山形市東原町1-9-4

電話・FAX／023-633-9927

<http://www4.plala.or.jp/fusuma/>

E-mail:fusumadosokai@yahoo.co.jp

発行日／令和3年6月15日

印刷所／坂部印刷株式会社